



室蘭工業大学地域共同研究開発センターニュースレター No.42

メタデータ	言語: jpn 出版者: 室蘭工業大学地域共同研究開発センター 公開日: 2017-08-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/00009265

開設10周年を迎えるCRDセンター

室蘭工業大学長 田頭博昭

室蘭工業大学地域共同研究開発センター（CRD センター）は、大学の研究成果を地域社会に還元して地域の技術力向上に貢献することを目的として、民間機関等と室蘭工業大学が共同で研究開発に取り組むために昭和63年に設置されました。

この種のセンターとしては全国的にも極めて早い時期の設置であり、東北・北海道としては初のセンターであったわけであります。

以来、運営委員会、事業推進検討会、研究協力会等の活動を支えとして民間企業等との共同研究の窓口としての役割を担ってまいりました。具体的には技術相談、技術研修、受託研究、共同研究、客員研究プロジェクト等の活動があります。これまで取り上げられた研究課題の分野は、エネルギー、生産システム、建設・社会基盤、海洋、環境、電気・通信、制御、バイオテクノロジー、知識・情報など、現代の工学の主要な分野を網羅しております。

この度、開設10周年を迎える事ができますのは、上のような活動を推進し、あるいはこれにご協力下さった学内外の多くの方々のご努力の賜物以外の何物でもありません。

この場をお借り致しまして、心から御礼申し上げます。

今後のCRDセンターの課題と致しましては、上述の如き活動を一層強めることのほかに、本センターに引き続いて道内に設置された各種のセンターとの連携を強化すること、あるいは北海道通産局の北海道産業政策に謳われる「札幌・千歳・苫小牧・室蘭」地区の企業活動促進の環境づくりへの協力、さらにはセンターといわゆる中小企業との垣根を一層低くし、本センターの活動を拡大、拡充すること等が考えられます。

また、CRDセンターの設置母体である室蘭工業大学自体と致しましても、既設の学科・研究科等における研究内容の一層の高度化を図るのは勿論ですが、その他に、未来を指向する高度技術でありながら、同時にその技術により周辺の産業分野あるいは既存の産業分野の支援も十分に行うことのできるような研究分野、例えばマイクロ機能工学のような分野を取り上げ、その分野の研究を特段に推進するといった、高度化と幅広さを兼ね備えた分野への進出も考慮する必要があるのではないかと考えております。また、このためには場合によっては、研究科の再編成等も大胆に発想する必要があるのかもしれないとも知れません。このような形で、CRDセンターを窓口として連携を保ち、有効な対応が可能となる分野を格段に広げることができないかと考える次第であります。

これらの活動はしかしCRDセンターに直接係わる部分だけを考えて見ましてもセンター職員のみでできる部分は限られており、学内の皆様の広範かつ強力なご支援なしには到底不可能であります。高度な専門知識を持っておられる教官の皆様の積極的なご尽力を心からお願い申し上げます。

地域産業の振興は、大学と社会の係わりの中で最も重要なモーメントをなすものであります。CRDセンターが次のディケード（10年間）に歩みを進める中で、産業振興と新産業創造のための大学と社会の接点として一層の発展をとげることを願ってやみません。

【運営委員会】平成10年度第1回議事録（4月14日）議

題1. H10年度民間等との共同研究について

区分Bの新規1件と継続1件の申請があり審議の結果承認された。

議題2. H10年度CRDセンターの事業計画について

H10年度の高度技術研修計画は電気電子工学科担当で、「フィードバック制御技術」を行うこととした。実施は11月（3日間）、定員10名。

議題3. CRDセンター運営委員の業務分担について

運営委員会委員の改選に伴い委員の業務分担が次のように決定した。

事業担当：

建設システム工学科 土屋 勉、材料物性工学科 後藤 龍彦

企画担当：

機械システム工学科 岸浪 紘機、情報工学科 鈴木 幸司、電気電子工学科 福田 永

編集担当：

応用化学科 菊池 慎太郎、共通講座 寺田 昭夫

報告事項

1. CRDセンターの新パンフレットのデザインの選定について

応募があった3種のパンフレットを順次使用したいとの提案があり審議の結果、異議なく承認された。

【平成 9 年度】共同研究事業

共同研究プロジェクト（客員教授プロジェクト研究）

研究代表者

NO	区分	研究 題 目	大 学 側 研 究 組 織	民間機関等研究組織
1	新規	帯状透水層埋設による海浜侵食防止に関する研究	建設システム工学科 教授 藤間 聡 教授 近藤 俣郎	(株)アルファ水工コンサルツ 代表取締役社長 川森 晃
2	新規	摺動部材の耐摩耗性改善に関する研究	機械システム工学科 教授 田中 雄一 助 手 長船 康裕	日本ビストンリング(株) 常務取締役 平岡 武
3	新規	鋼線のリン酸亜鉛皮膜処理に関する研究	材料物性工学科 教授 嶋影 和宜 助教授 平井 伸治	新日本製鐵(株) 室蘭製鐵所 製品技術部 部長代理 工藤 一郎
4	新規	河川と環境	共 通 講 座 教授 丸山 博 教授 山田 定市 教授 白石 正夫 助教授 長 利一 助教授 亀田 正人	徳島県那賀郡木頭村 村長 藤田 恵
5	継続	湿式摩擦材の高性能化に関する研究	材料物性工学科 教授 向井田健一	(株)ダイナックス精密 R & D センター副センター長 荒木 道郎

民間等との共同研究

研究代表者

NO	区分	研究 題 目	大 学 側 研 究 組 織	民間機関等研究組織
1	A 新規	水中トリの流体力学的特性	建設システム工学科 教授 近藤 俣郎 C R D センター 助教授 飯島 徹	北日本港湾コンサルタント(株) 技術部長 大塚 夏彦
2	A 継続	アラミドテープを用いたコンクリート部材の耐震性向上工法に関する研究	建設システム工学科 助教授 岸 徳光 教授 松岡 健一 助 手 小室 雅人	三井建設(株) 技術研究所 主任研究員 三上 浩
3	A 継続	火山灰地盤の耐震性能の評価と対策に関する研究	建設システム工学科 教授 三浦 清一 助 手 川村 志麻	(株)地崎工業 技術開発部 研究員 八木 一善
4	A 継続	圧力などの変動を受ける過熱液体中の気泡・蒸気膜挙動に関する研究	機械システム工学科 教授 花岡 裕 助教授 戸倉 郁夫	(財)宇宙環境利用推進センター 無重力施設利用部長 鈴木 紀男
5	B 継続	石油貯槽の耐震設計法に関する研究	機械システム工学科 教授 臺丸谷政志 教授 西田 公至 助教授 小林 秀敏	甲陽建設工業(株) 技術本部構造解析部 技術長 吉田 聖一
6	B 新規	G P S を用いた視覚障害者のための位置通知機能の研究	情 報 工 学 科 教授 杉岡 一郎 助 手 堀 勝博	(株)エスイーシー 情報通信事業本部 次長 小椋 義人
7	B 継続	振り子式波力発電システムの高性能化	建設システム工学科 教授 近藤 俣郎	(社)寒地港湾技術研究センター 第 2 調査研究部長 井上 達治
8	B 継続	海浜変形の地域特性と海岸侵食対策の研究	建設システム工学科 教授 近藤 俣郎 教授 藤間 聡	北海道開発コンサルtant(株) 技師 長谷川祐史
9	B 継続	衛星による地盤変動予測に関する研究	情 報 工 学 科 教授 後藤 典俊 材料物性工学科 助 手 河内 邦夫	北海道電力(株)室蘭支店 静内電力所送電課 渡邊 幸樹
10	B 新規	プリプレス～プレスまでの色彩値管理	機械システム工学科 教授 三品 博達	リョービ(株)グラフィックシステム本部 管理技術部 杉本 博
11	B 新規	超伝導センサを用いた非破壊計測に関する研究	電気電子工学科 教授 安達 洋 助教授 中根 英章 助教授 松田 瑞史	セイコーインスツルメンツ(株) 技術総括部マイクロ計測グループ 課長 茅根 一夫
12	C 新規	鋼製橋脚の耐震性向上に関する研究	建設システム工学科 助教授 岸 徳光 助 手 小室 雅人	日本製鋼所(株) 室蘭研究所研究員 小枝日出夫
13	C 新規	オーステンパ球状黒鉛鋳鉄の湿潤環境での脆化機構	機械システム工学科 教授 田中 雄一	高周波鋳造(株) 開発課長 渋谷慎一郎
14	C 継続	液体金属を用いた電子源の研究	電気電子工学科 教授 安達 洋 助教授 中根 英章	(株)東研 研究員 斉藤 泰
15	C 継続	サーボ系のオートチューニングに関する研究	機械システム工学科 教授 疋田 弘光 講 師 花島 直彦 助 手 山下 光久	朋立技研(株) 取締役 杉山 豊繁

民間等との共同研究

研究代表者

NO	区分	研究題目	大学側研究組織	民間機関等研究組織
16	C 新規	高合金鋼とESRスラグ間の平衡に関する研究	材料物性工学科 教授 片山 博 助教授 桃野 正 助手 田湯 善章	(株)日本製鋼所 室蘭研究所 研究員 伊藤 彰宏
17	C 新規	マルチメディア・ソフトに搭載する画像・音声等の圧縮技術の研究	情報工学科 教授 杉岡 一郎 助手 堀 勝博	北都システム(株) 技術部第1課 相沢 肇
18	C 継続	イントラネットを対象とした情報通信の最適化に関する研究・開発	情報工学科 助教授 畑中 雅彦	ニッパ北海道制御システム(株) システムエンジニア 田島 和典
19	C 新規	ダクタイル鋳鉄の高温強度特性	機械システム工学科 教授 田中 雄一	浅間技研工業(株) 第一製造部 宮本 一道
20	C 新規	耐磨耗性CV黒鉛鋳鉄の研究	機械システム工学科 教授 田中 雄一	日本ピストンリング(株) 生産技術第3部部長 川村 治

民間機関等からの受諾研究

研究代表者

NO	研究題目	大学側研究組織	民間機関等研究組織
1	脱臭・徐塵を目的とした雪冷房システムの試験研究	機械システム工学科 助教授 媚山 政良	三機工業(株)
2	横流ファンと熱交換器の流れ特性に関する研究	機械システム工学科 教授 杉山 弘 助教授 新井 隆景	(株)東芝
3	RC造立体耐震壁の力学挙動に関する研究	建設システム工学科 教授 荒井 康幸	西松建設(株)
4	車椅子の補助電動装置及び制御システム開発	情報工学科 教授 後藤 典俊	(株)データイン
5	室内の快適な気流に関する研究	建設システム工学科 教授 窪田 英樹	(株)ミサワホーム総合研究所
6	軽金属への超耐化学性セラミックスの新コーティングプロセスの開発	材料物性工学科 教授 嶋影 和宣 助教授 平井 伸治 助手 戸田 茂雄	中小企業事業団

ブレ共同研究

研究代表者

NO	研究題目	大学側研究組織	民間機関等研究組織
1	ネットワーク・コラボレイテッド・コンピューティングに関する研究	情報工学科 助教授 畑中 雅彦	北海道エニコム(株) システムソリューション第二部 担当部長 大岩 高雄 副主任 竹谷 弘
2	鉄鋼材料へのダイヤモンド薄膜被覆技術の開発	材料物性工学科 助教授 斎藤 英之 電気電子工学科 助教授 酒井 彰	(財)室蘭テクノセンター 研究開発室室長 相馬 英明 研究開発室主幹 田中 壽晃
3	土質ボーリング資料の尺度化による整理方法に関する研究	材料物性工学科 助手 朝日 秀定	北海道調査測量(株) 調査部次長 大浦 宏照

共同研究の区分

区分	民間等共同研究員の研究費負担の有無		研究開発の実施施設の場所	直接経費(実験設備及び消耗品費)			総経費に関する事項
				民間等	大学	文部省	
A	通常型	42万円	大学のみ	○		○	200万円超
	分担型	なし	大学と企業	○		○	
		42万円		○		○	
B	通常型	42万円	大学のみ	○		-	200万円以下
	分担型	なし	大学と企業	○		-	
		42万円		○		-	
C	通常型	42万円	大学のみ	-	-	-	規定なし

○：負担する ：負担しない場合もある -：負担しない

日 時：平成10年6月19日（金） 午後3時～午後5時
 場 所：蓬◆殿 [室蘭市宮の森 1-1-64、Tel：0143-44-3338]

演 題1 「地球環境の危機」

午後3時～午後4時

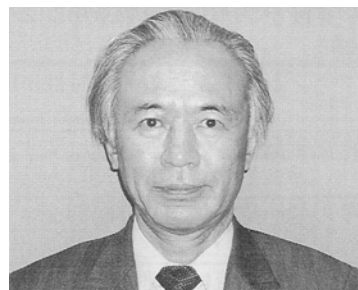
NHK 解説委員
 文教大学教授
伊 藤 和 明 氏



演 題2 「北海道浮上への条件」

午後4時～午後5時

室蘭工業大学教授
近 藤 俣 郎 氏



講演会は一般市民の皆様も対象にしておりますのでお誘い合わせの上多数の皆様のご参加をお願い致します。

「平成9年度高度技術研修終える」

平成9年度 CRD センター高度技術研修が平成10年3月25日(水)～3月27日(金)の3日間定員10名の参加者があり、盛況のうちに終了した。講師陣は情報工学科のスタッフを中心に構成され、パソコンを自作し、基本ソフト及び応用ソフトのインストールからサーバを構築するまでの基礎技術を実習を通して行なわれた。



「研究協力会役員会及び総会」終える

平成10年度の第1回研究協力会の役員会が4月10日(金)14時よりサルト室蘭で行われた。役員会では1.平成9年度決算 2.平成10年度事業計画 3.平成10年

度予算が審議された。又、研究協力会会長に新日本製鐵(株)室蘭製鐵所の矢崎 尚氏が選出された。

15時から平成10年度第1回定期総会が開かれ上記議案が、審議の結果承認された。



引き続き16時から「産学連携と室蘭工業大学」と題して本学 田頭 博昭学長が特別講演を行った。

その後、懇親会が開かれ、研究協力会の会員相互と大学関係者の親睦を深めた。

なお、協力会の会員数は5月8日現在で80社である。